

成果指標				
成果指標	当該年度の果樹育成袋(園地面積)・栗剪定(園地面積)・苗木(植栽面積)・パーク堆肥(投入面積)の各実施面積の累計/当該年度の各実施計画面積の累計(目標数値)×100			
指標設定の考え方	各実施計画面積(目標数値)に対する各実施面積を測定することにより、優良品種の導入や生産体制整備等について効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%以上	100%以上	0	0
実績	108.8%	94.5%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	相対として目標は達成され、事業要望に関する精査も図られる等認められる自己課題はない。また、事業実施主体聴取による農業者ニーズの動向把握では、現状、事業の見直し等についての必要性は伺えない。引き続き、農家の事業動向に注視し、必要に応じた事業項目・補助条件の見直し等について適時検討するのみである。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	農業者のニーズに沿った事業であり、今後も継続して実施していく必要がある。なお、事業項目・補助条件については、今後、より農業者のニーズにあったメニュー、またより事業効果が向上する内容を追求し、それに応じて見直しを図っていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	